

ドレミファ器楽

フル・スコア SK-84

ポンキエルリ「ラ・ジョコンダ」より 時 の 踊 り

小島里美 編曲

1834年生れのイタリアの作曲家ポンキエルリは、ミラノの音楽院に学んだ後、クレモナのサン・イラリオ聖堂のオルガニスト兼楽長として活躍し、1886年ミラノの地に没した。教会音楽が彼の作曲活動の主たるものであるが、1876年ミラノで上演されたオペラ「ジョコンダ」は、彼の名前を永久に音楽史上に留める傑作となった。この中の「時の踊り」は今日でも、よく単独で演奏される名曲である。

〔演奏上の注意〕

ここでは原曲より、主要なテーマを持つ3部分を、抜粋して編曲してある。それぞれ拍子もテンポも違うので、分けて練習し、それぞれの雰囲気をよくつかんで演奏して欲しい。

第一部は $\frac{2}{2}$ モデラート。 \textcircled{A} からおなじみのテーマになるが、ここはごく軽く可愛らしい感じに仕上げること。 \textcircled{B} から臨時記号方式なので、調号は変わっていないが、実際はホ短調に転調している。ここから哀愁をおびた感じになる。メロディーは充分に歌いこんで、演奏に臨むこと。

第二部は $\frac{3}{4}$ アンダンテ。ゆったりと流れる、メロディーとメロディーの合間に、強烈なアクセントが入るのが大きな特徴。ハッキリとその差をつけるように。木琴は必ずソフトマレットを使用し、32分音符はトレモロの積りで奏すれば、それほど難しくはない。

第三部は $\frac{4}{4}$ アレグロヴィヴァーチュ。いわゆる「フレンチカンカン」の踊りによく使用されるリズムの有する部分。軽快なリズムにのって、そのままの勢いで演奏してしまおう。最後の方にリコーダーの16分音符が出てくるが、Dの音を替え指にすると楽である(音程は多少狂うが、速い時はあまり気にならない)曲全体を通して言えることは、強弱や $\text{—} \text{—}$ の差をハッキリつけることである。それによって曲は生き生きとしてくる。また頻繁に出てくる rit. と a. tempo を上手にこなすと、曲に趣きが出る。尚ここでは、曲中シンバルのパートの人が、持ち替えでトライアングルを叩く箇所がある。又、小太鼓、サスピションシンバルは、スティックで奏する所とブラシを用いる所があるので、それぞれ必ず使い分けること。() は、左手ブラシは鼓面をこすり、右手ブラシで3拍目を叩く、という奏法である。フルートとティンパニーは、なくてもさほど演奏に差し支えがない。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て
和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つ
ずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

Moderato

フルート
(無くても)
(演奏可能)

ソプラノ
リコーダー

鍵盤
ハーモニカ

ソプラノ
アコーディオン

アルト
アコーディオン

テナー
アコーディオン
(オクターブ)
(上に記譜)

バス
アコーディオン

木琴

錆

A musical score for five woodwind instruments and piano. The woodwinds are flute (top), soprano recorder, keyboard harmonica, soprano accordion, alto accordion, tenor accordion (octave higher than written), and bass accordion. The piano part includes dynamics like *f*, *p*, and *mf*. The score consists of four systems of music, each starting with a rest followed by a melodic line.

A continuation of the musical score for the same ensemble (flute, soprano recorder, keyboard harmonica, soprano accordion, alto accordion, tenor accordion, and bass accordion) and piano. The piano part features sustained notes and dynamics like *f* and *p*.

SAMPLE

ポンキエルリ「ラ・ジョコンダ」より

時 の 踊 り

鍵盤ハーモニカ

小音量

Moderato

